

西区自治協議会 会議概要

令和5年度 第8回会議	
開催日時	令和6年3月27日（水）午後3時00分から午後4時30分まで
会場	内野まちづくりセンター ホール
出席者	<p>委員</p> <p>大谷会長 風間副会長 五十嵐副会長 久保田委員 伊藤（甲）委員 齋藤委員 岩沢委員 伊藤（健）委員 竹田委員 笹川委員 藤橋委員 大島委員 澤邊委員 朝倉委員 相田委員 田中（幸）委員 山岸委員 篠田委員 長澤委員 原澤委員 古俣（慎）委員 高橋委員 西山委員 計23名</p> <p>[欠席：古俣（雄）委員 渡邊（恒）委員 泉井委員 田中（米）委員 伊藤（正）委員 青木委員 荻野委員 堀川委員 佐賀委員 渡邊（隆）委員 山賀委員 古俣（和）委員 前田委員]</p>
	事務局等
議事	<p>（1）西区地域公共交通検討会議委員の推薦について</p> <p>○資料1-1に基づき、高山地域課長より説明がありました。</p> <p>○資料1-2に基づき、委員の構成員（案）について、大谷会長より説明がありました。</p> <p>○審議の結果、案のとおり決定することとしました。</p>
	<p>（2）令和5年度区自治協議会提案事業の事業評価について</p> <p>○資料2に基づき、各部会長、会長より説明がありました。</p> <p>○審議の結果、案のとおり決定することとしました。</p>
報告 (自治協議会から)	<p>（1）委員の辞任に伴う後任委員の推薦について</p> <p>○資料3に基づき、岩沢委員推薦会議座長より報告がありました。</p>
	<p>（2）委員の辞任について</p> <p>○資料4に基づき、岩沢委員推薦会議座長より報告がありました。</p>
	<p>（3）部会の状況報告について</p> <p>○資料5に基づき、各部会長より部会の審議状況について報告がありました。</p>
報告 (各所管課から)	<p>（1）新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動について</p> <p>○資料6に基づき、学校支援課藤田指導主事より報告がありました。</p>
その他	<p>（1）令和6年度新潟市区自治協議会全体委員研修会の開催について</p> <p>○資料7に基づき、高山地域課長より説明がありました。</p>
	<p>（2）市長と西区自治協議会委員との懇談会について（日程決定）</p> <p>○資料8に基づき、高山地域課長より説明がありました。</p>

	<p><坂井輪地区公民館のアスベスト調査に関する結果について> ○高島坂井輪地区公民館長より報告がありました。</p>
	<p><次回日程> ○令和6年度第1回西区自治協議会 開催日程：令和6年4月26日（金）午後3時（予定） 会場：西区役所健康センター棟1階 大会議室</p>
傍聴者	1人

（大谷会長）

続きまして所管課からの報告（1）

新潟市の中学生のための地域活動、地域運動活動、文化活動についてであります。

教育委員会学校支援課より報告をお願いいたします。

（学校支援課）

はい。皆さんこんにちは。教育委員会学校支援課の藤田と申します。今年度より教育委員会で勤務をしておりますが、一応、1年前まで、西区の中学校の体育の教員をしておりました。部活動をやりたくて、部活動を通して子供たちと成長したくて、中学校の教員を志しました。長いこと、中学校体育連盟で仕事をさせていただいておりました。どうぞよろしくをお願いいたします。

このあと正面のスクリーンで説明動画を見ていただきたいのですが、その前に2点確認をさせていただきます。

本日の次第のところにも、中学生のための地域運動活動後、文化活動についてとありますが、話も長くなっています。資料6をご覧ください。資料の一番上、青い文字で地域クラブ活動とあります。今後は地域運動活動、文化活動というところが地域クラブ活動という名称で読んでいきたいと思っておりますので、お願いいたします。

2点目です。スポーツ庁や文化庁には、部活動の地域移行、という言葉を使っています。皆さんどうでしょうか。部活動の地域移行と聞くと、どのようなことをイメージされるでしょうか。もし、あまり誤解になると思って、なるべく使わないようにして好きな言葉ではないんですが、私初めて聞いたときには、部活動の地域以降と聞くと本来、学校がやるべきことを地域にスライドさせるといいますか、学校がやらなければいけないことを地域に任せる、そういうような誤解を生むような言葉だなというふうに捉えていました。私もつい最近までは、部活動は中学校でやらなければいけないもの、だというふうに捉えてきたんですが、実はそうではないんです。部活動というものは、スポーツや文化芸術活動を中学生やってるんですけども、やってもいいし、やらなくてもいい活動なんですよ。学校によっての部活動そのものを設置しない学校があったとしても全く問題はないことなんですよ。部活動学校に設置するのか、設置しないのかってことも、学校に任されていますし、設置すると決めた場合、陸上競技部を設置するのか、バレーボール部を設置するのか、何を設定するのかっていうことも学校に任されています。ですので、学校がやらなければいけない活動ということをお話ないようにしていただきたいなと思っています。また中学生がスポーツや文化芸術活動に将来にわたって持続可能な取り組みができるように、私達大人が力を合わせて、環境整備をしていきたいと思いますというふうに捉えていただくと大変ありがたいなと思います。それではスクリーンで映像を流しますので、ご覧ください。

（動画再生）

(学校支援課)

ありがとうございました。それでは少し暗いんですが、お手元の資料6の3枚目の裏をご覧ください。子供たち小学校高学年、新潟市内全ての5、6年生にアンケートをとりました。中学生になったらどんな活動がしたいですか。三つまで選んでくださいというアンケートでした。市内の5、6年生全てにお願いしたのですが、任意のアンケートでしたので、回答を得られたのは約3割の生徒でした。

次に、どのように取り組みたいですかってことで質問しました。オレンジの部分が、県大会、絶対全国大会に出たい、試合で勝ちたい。水色の部分が楽しく活動したい、友達と仲良く活動をやっていききたいというような子供たちの思いがありました。

この改革取り組みは、子供たちのための改革でなければいけないなと思っています。この子供たちのニーズを反映させた。活動が展開できるように、今後も競技団体等に働きかけてお願いしていききたいなと思います。

ありがとうございました。この後、ご質問やご意見等いただきたいなと思っております。

(大谷会長)

はい。いろいろありがとうございました。

部活動の地域移行の内容丁寧に説明されてご理解いただいたかと思いますが、ただいまの報告について質問がございましたらお願いしたいと思います。

はい、伊藤委員。

(伊藤(健)委員)

はい。すいません真砂コミ協の伊藤です。

実はちょっとお聞きしたい点がありまして、こういう取り組み、学校の先生の負担を考えると非常に重要にはなってくると思うと私は考えてます。実は今私はもう子供中学校、卒業してるんですが、実はこういうケースがあったんですけども、うちそれこそバドミントンやってたりしてたんですが、今ちょっと中体連の春、秋の大会、春は全国大会の大会があるわけですね。その中で、今までは実はこういうケースがあったんですが、ジュニアから中学校になると、クラブチームに入ると、その大会には参加できない。各種目に応じて若干違うと思いますけれども、そうなりますとこれでいきますと、今度、いわゆるクラブチーム的な形になってくる、考え方ということにはなってくると思うんですが、これ今後、例えば新潟市それから今度北信越、県大会いうふうな形の流れが、全国に続く形になるっていうことになると、結果的にクラブチームの参加が可能になってくるのか、それとも、いややっぱり今まで通りけれどもという形になるのかによって、だいぶ今後の中学生の考え方がかなり変わってくるんじゃないか思ったんです。この流れそもそも教えていただいた方がいいのか、お願いします。

(学校支援課)

ご質問ありがとうございました。

中学校体育連盟主催大会、略して中体連大会ってありますが、新潟市の大会から始まって勝ち上がると、新潟県、北信越、全国へと繋がっていく大会です。今までは、学校所属のみでした。内野中学校に在籍している生徒は、内野中学校の代表として大会出てました。そこが今年度、令和5年度から、大きく変更されました。変更した点は、もちろん学校所属からも出られるんですが、地域のスポーツクラブからも、大会に出られるように大会の参加資格が緩和されました。

ただし、どのスポーツクラブからも参加ができるかというところではなくて、定められた基準を全てクリアし、新潟県の中体連が認定した団体は参加ができるようになりました。

申請をして、全ての基準をクリアしていったって、認定された団体が参加できるように今年度大きく変わりました。

(伊藤(健)委員)

ありがとうございます。ただ、今のご説明ですと、この新しくできる形の、資料の形でやるという、今の現状でいくと、要は県の中体連、そちらの方の申請をして基準を通らないと大会に出れなくなってしまう。子供たちですね中学生がっていう形の考え方でよろしいですか。

(学校支援課)

はい、その通りです。中体連大会を主催しているのは中体連です。ですので、その大会に参加できるかできないのかを決めるのも、中体連に権限があって、中体連が丸と言えば丸ですし、出られないと言えば出られないという状況です。

(伊藤(健)委員)

ちょっとわかりやすく簡単に基準等を教えていただければ、というのは、今これがスタートするってことになる、これおそらく今あくまでもスポーツ的な部分でちょっと私お話しました。例えば吹奏楽部の大会、いろいろ今回夏休みに皆さんでいろいろ大会いろんな何かいろいろあると思うんですね演劇だったり、そうなってくると、そういう部分が全部影響してしまうんでしょうかね。

例えば地域の中で西区の中でも坂井輪の中で、例えばやるとすればそれ以外の小針の方でどこでも集まってきてそのチームで実は何かスポーツやりました、ただ、基準が合わないの大会には出れませんということになってしまうと、これはかなり不公平感っていうのが発生してくるんじゃないかなと。それもちょっと基準だったりお願いできればと思います。

(学校支援課)

はい、ありがとうございます。

あの基準というのが実はすごく多くて、新潟県の中体連で定めているのが、10くらいだったと思います。あと、日本中体連、国の組織で、例えば陸上競技部、バスケットボール競技部という種目ごとに細かな細則というものがあって、それも全て満たさないと駄目というふうになっていて、かなり難しくなっています。ホームページで新潟県中学校体育連盟、というところを見ていただくと、細かくでていきますので、よろしく願いいたします。あと、今も吹奏楽の話も出ましたが、今年度に西蒲区のある中学校A校とB校が合同で県大会に参加して、上位大会まで進んだというようなことも聞いています。

(大谷会長)

よろしいですか。はい、他はいかがですか。篠田委員。

(篠田委員)

はい。健康教育スポーツ専門部会所属の3号委員の篠田です。

ご丁寧な説明ありがとうございました。今の伊藤委員の話もあつたんですけど、実は制度設計ですね。新潟市実は今の伊藤委員のお話もそうですけど指導者や関係者からちょっといろんな情報がピンポイントで得られない。そういった基準が何かわからないといろんなことが自分たちの立場から進められないということが、情報が入りにくいっていうのがとても声出てます。いろいろ頑張ってるんでそのいろんなことが決まりましたっていうのは、逐一出てくるんでホームページにも3月にもいろいろありましたね。評価が出たり、指導者検証オンデマンドが出たりとかありますけれど、自分たちが欲しい情報を基準に今出てるようなことですね、それがわからないと進めない、制度設計ですね。

それと指針に新潟市はそれに合わせてどうするのか、ということが見えにくいので、動けないという言葉が各団体あるいはスポーツの協会から来ています。指導者の方も同じです。どういう指導者というのはどういう基準なのか、どういう人が入れるのか、そういう方針が県の方では結構出てますし、県の方の制度設計について転機を出してありますので、それに応じて他の市町村は、全部そういったものを冊子とか、ガイドラインとして明示して、手引き書ですね、それからもう一つ、取り決めの進捗状況ですね。進捗状況を皆さん広報誌で定期的に出してらっしゃるので、そこで指導者がどういうことが基準になってるかとか、どういった取り組みが、県であってそして自分のとこの市ではどういうふうに本当に今の伊藤委員の話もそうですけど、非常に複雑ですね。そうすると、ちょっと丁寧に情報を集約して、我々が自分たちでピンポイントに知りたい情報をいつでもどれになるかわかるそして取り組みがあった場合それがすぐにはわかるアップデートされるような情報原というのが特に明文化された文書で、ガイドラインとして出していただければありがたい。実際他の市町村だと出てるようなんですね。新潟市の場合ちょっと見つけられない。ホームページでいろんな情報を出してらっしゃいますけれど、そういった冊子、手引き書、広報紙、そういったものがちょっと見当たらずですけど、その点についてもお聞きしたいと思いますよろしくお願いします。

(学校支援課)

ありがとうございました。ホームページを見ていただいてありがとうございます。推進計画等につきましては、準備をしておりますが、まだ公表できるまでに至っておりません。できるだけ早く皆さんの目に入れられるように進めてまいります。よろしくお願いいたします。

競技団体等への説明ということだったんですが、先日、新潟市スポーツ協会の理事会や、評議委員会をお願いに上がりました。そこには、新潟スポーツ協会では、51の競技団体が加盟しているんですが、その代表の方々がいらっしゃいました。お願いした内容は、年度が変わりますと、それぞれ総会を開くということだったので、その総会の場に所属している加盟している教室、クラブ、チームの方々にもお声がけいただいて、集まっていたら、その総会の場で私達が今のような説明であったり、競技ごとに要望等も異なっているようですので懇談の場を設けて質問ご意見をいただいたり、意見交換するような場を設けていきたいと考えております。今のところ、いくつか予約が入っている状況です。

(大谷会長)

はい、ありがとうございました。

他にございませんか。はい、長澤委員。

(長澤委員)

今日の資料を拝見しますと、立ち上げの補助検討、これまだ検討中。指導者のリストの作成、これはどうなんでしょうか、もう作成が終わってらっしゃるんでしょうか、どうなんでしょうか。なんかこういったのを拝見すると、受け入れの体制が整わないまま移行にしているもしくは並行して、やってらっしゃるのかなという感じがいたします。

先ほどの説明にもございましたけども、中学生生徒のための改革であるというお話でありましたけれども、その中で各地域地域で、何て言うんでしょうか、その所属団体に対して選択の自由がありますということなんですけど、例えばA団体、B団体、それぞれ活動に参加するための費用が違うということになると、公平な選択の自由があるのかなというようにちょっと不安もあったりするんですけど、その辺のビジョンというか、こういう姿が望ましいというものがおありだったら、お聞かせいただきたい。

(学校支援課)

ありがとうございます。

一つ目の立ち上げ補助の検討ということですが、令和3年度から実証事業、こういったものが望ましいのかということで実証していく中で指導者謝金に対する費用が多くを占めているんだということで、指導者謝金に対する補助を考えています。3月末には確定し、4月にはホームページ等でお知らせができるように準備を進めているところです。指導者リストも募集はしていますが、まとまったデータが、こちらにあって、提示できるいうところまではいっていませんが、私自身努力していきたいと思っています。

最後の団体を選ぶことなんですが、資料6の後ろから2枚目をご覧ください。上の方の団体リストというものです。住んでいる地域や、もうやりたい活動が決まっている場合には、子供たちのタブレット等で検索ができるようなシステムを準備しているところです。例えば、西区に私が住んでいて、西区で活動を探したい場合は、8区ある中から西区をタップすると活動できるのが一覧でいろんな選べるようになっていて、剣道が出ていますが、西区と剣道に興味があって剣道をタップすると、このようなものが選べるように準備を進めています。この中にも活動の方針であったり、月会費用がどのくらいかかるのかっていうこともわかるようにしています。教室やクラブ、チーム等でホームページ等がある場合はリンクを貼って、そこまでできるようにしていきます。子供たちはいろんな条件いろんな選択肢の中から、自分たちがやりたいものを選ぶように準備を続けてまいりたいと思っております。

(長澤委員)

はい、ありがとうございました。

最後にいただいている資料の中で、新潟市が総がかりで子供を育てるというフレーズが出てきます。なかなか新しい制度を取り入れるっていうのはやっぱり生みの苦しきも大変大きなものがあると思いますが、ぜひこの総がかりの中にこの地域の、また私達のような地域のですね、いろいろな事業として参加しているこのネットワークを生かした、そういう人材をですね、取り込んで、活動の遂行に役立てていただければと思います。よろしく願います。

(大谷会長)

はい、ありがとうございました。大変恐縮ですが、この会議は4時半までの会場使用になっておりますので、もうお一方、質問ありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

(伊藤(健)委員)

すいません、ちょっと一つ一つ、例えばサッカーだったらグランセナがあると思いますが、それも含まれるんですか。

(学校支援課)

大会の参加ということではなくていいですか。

(伊藤(健)委員)

要は団体リストの中にそういうところも含まれますか。

(学校支援課)

はい、このリストに掲載する団体は、非営利活動のものを掲載しようと思っています。今の具体的な名前ではなりましたが、おそらく、営利の団体なのかなと思うんです。営利の団体であったとしても、中には法人化したり、非営利活動を展開するといったところもお話

を受けているので、そういったところは非営利活動のものはリストに掲載していく方向で基準を設けて今準備を進めているところです。

（大谷会長）

はい、大変恐縮ですがこの後の時間の関係もございますので質問はこの辺で終わりにさせていただきますとうございます。学校支援課様大変ありがとうございました。